

2017年1月1日川越教会

新しい歩みを

加藤 享

【聖書】 マタイによる福音書3章13～17節

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼（バプテスマ）を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼（バプテスマ）を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。イエスは洗礼（バプテスマ）を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

【序】 ナザレの大工イエス

2017年1月1日。明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しく願いいたします。皆さんお一人お一人の歩みの上に、**祝福**が豊にありますようにお祈りいたします。

週報に昨年の教会の主だった歩みを記しました。私の**退職**が迫って来ましたので、**後任者選び**が教会としての重要課題でした。幸い大泉教会員の**丸山勉兄の招聘**がスムーズに決まり、感謝です。この一年は**教会主事**として働き、川越教会に慣れて頂きます。

さて聖書教育の教案による今日の聖書の箇所は、**主イエス**がバプテスマのヨハネからヨルダン川で**バプテスマを受けた**場面です。皆さんはここからどのような**新年のメッセージ**を受け取られましたか。

先週のクリスマス礼拝では、**新しい王の誕生**を拝みに来た、遠い東の国からの**占星術の学者たちの来訪**の意義を学びました。その結果、ヘロデ王がベツレヘム一帯の2才以下の男の子を皆殺しにしてした**悲劇**が発生しました。しかし天使のお告げを受けて、ヨセフはマリアと幼子連れて、いち早く**エジプト**に逃れ、ヘロデ王が死んでからガリラヤの**ナザレ**に戻ってきました。父ヨセフが死に、若い主イエスが**村大工**の後を継ぎ（マタイ13:55、マルコ6:3）、**長男**として母マリアと弟たちの生活を支える暮らしを送っていました。

[1] 人生の大転換

主イエスが**30才位**になった頃です。(ルカ 2:23) **バプテスマのヨハネ**がユダヤの荒れ野に現れて、**悔い改め**を迫る**宣教**を始めました。人々が集まって来てその宣教に心を打たれ、**罪を告白して**ヨルダン川で彼から**バプテスマ**を受け始めました。そのニュースがナザレにも伝わってきたのでしょう。すると**主イエス**が、ナザレからヨハネの許に出かけて行ったのです。そして自ら申し出てヨハネから**バプテスマ**を受けたのでした。

ヨハネはさすがに**神に召された預言者**です。その**霊の力**によって主イエスが**特別な人物**であることを感じとりました。「わたしこそ、あなたから**バプテスマ**を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし主イエスはお答えになりました。「今は、**止めないでほしい**。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」

そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにしました。すると、主イエスがバプテスマを受けて水の中から上がった時に、天が開いて**神の霊**が鳩のように主イエスに降って来て、「これは**わたしの愛する子** (詩 2:7)、**わたしの心に適う者** (イザヤ 42:1)」と言う声が天から響いてきたのを、主イエスははっきりと聞きとったのでした。

そこで主イエスは、**荒れ野**に導かれて**40日間の断食祈禱**をされ、悪魔の誘惑と戦い、それを退けました。そして、ヨハネが領主のヘロデに捕らえられると、ナザレを離れて**カファルナウム**の町に居を定め、「**悔い改めよ、天の国は近づいた**」と宣べ伝え始めました。いよいよ**救い主キリスト**としての公生涯を開始されたのです。ナザレの村大工イエスの人生に、**救い主キリスト**として働くべき**大転換**をひき起こした出来事、それがヨハネによる**バプテスマ**だったのでした。

もともと父**ヨセフ**は、婚約者**マリア**が聖霊によって授かった子を、**イエス**と名付けるようにと命じられていました。イエスが**自分の民を罪から救う者**となるからです。そして「おとめが身ごもって男の子を産む。その名は**インマヌエル** (神は我々と共におられる) と呼ばれる」という**イザヤの預言が実現されるのだ**と、天使から告げられていました (マタイ 1:21~23)。これは我が子にとって**大事なこと**ですから、ヨセフは当然イエスに語り伝えていたでしょう。

そこで**イエス**と名付けられた自分には、**神の特別な期待と任務**が与えられて

いるのだということ、**主イエス自身も知っていた**と思います。それならば、自分から都に出て行って、ユダヤ教のしかるべき教師の許で特別の教育を受けて、**将来に備えよう**としても良さそうなのに、両親のヨセフ、マリアもイエス自身も、ナザレ村の大工としての**平凡な生活**を送って居たのでした。生れる前に聞いた神の言葉と、自分たちの実際の境遇とが余りにも**かけ離れ過ぎている**ので、**非現実的**な話だと思い込んでいたのではないのでしょうか。

ところが**30才**になったイエスの耳に、**荒野**で悔い改めを迫る**預言者ヨハネ**の**宣教**と、**ヨルダン川**での**バプテスマ**のニュースが伝わって来たのです。恐らく主イエスは**母マリア**から、聖霊による受胎を天使から聞き、驚いて親戚のエリザベトの家を訪ねた時、**エリサベトのお腹の子ヨハネ**が喜び踊ったことを、聞かされていたでしょう。そのヨハネが成人して**バプテスマのヨハネ**になったのです。

しかも由緒ある祭司の子として育ったヨハネが、らくだの毛衣を着、いなごと野蜜を食べ物とし、**荒野に主の道を整える預言者**として、活動を始めたと言うのです。その知らせを聞いて、平穏な村大工をしてきた主イエスの心に、**大きな衝撃**が起こったのではないのでしょうか。そこで彼は、母マリアと弟たちとの平穏な生活を捨てるべき**転換の時**の迫りを感じ取り、**荒野のヨハネ**の許に出かけて行ったのではないのでしょうか。

[2] 救い主キリストの任職式

それにしましても、「**自分の民を罪から救う者になるからイエス**と名付けよ」と言われて生まれた主イエスが、どうして、**自分の罪を告白する人々**と一緒にあって、バプテスマを受けたのでしょうか？ヨハネですら、「わたしこそ、あなたからバプテスマを受けるべきです」と言って、断ろうとしています。

さすがにヨハネですね。人々に悔い改めのバプテスマを授けていても、**自分自身の罪深さ**を自覚しているのです。そうです。罪を犯さない人間は一人もいません。誰もがその罪を赦され、清められる者にならなければなりません。そのためにヨハネは、先ず自分の罪深さを自覚して悔い改め、その証として、人々にも罪の自覚を迫り、願い出た人々にバプテスマを授けていました。これは神の御心にかなう**正しいこと**です。ですから主イエスも「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」と言われたのです。

しかし悔い改めるだけでは**不十分**です。その上で、**罪の赦しと清め**を神から

頂かなければなりません。これは神の憐れみと**救いの御業**によります。そのために神は、全ての者を**罪から救うメシア・救い主**として、イエスをお召しになったのでした。

その主イエスが**バプテスマ**を受けると、天が主に向かって開き、神の霊が鳩のように降って来て「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う天からの声が、主イエスには、はっきりと聞こえてきたのでした。「これはわたしの愛する子、今日わたしはお前を生んだ」とは詩篇2編のメシア預言の言葉です。また「わたしの心に適う者」はイザヤのメシア預言冒頭(42:1)の召命の言葉です。ですから主イエスが受けたバプテスマは、人々を罪から**救う救い主への任職式**だったと申せましょう。

それにしましても、先ず**ヨハネ**を荒野で叫ぶ預言者として立て、ガリラヤのナザレで村大工をしていた30才のイエスを、**ヨハネの許に呼び出して**、罪を悔い改める人々と共に**バプテスマを受けさせ**、罪の赦しをもたらす**救い主の任職式**をなさった——この思いもよらない**大転換**を、一体誰が予想し得たでしょうか。主イエス自身も、ヨハネにとっても、思いもつかない**神の導き**だったに違いありません。

以来、**救い主イエス・キリスト**は、神の御心に従って、病いに悩む者、貧しさに苦しむ者、虐げられる者たちと共に**生きながら**、互いに愛し合い助け合う命を与えようと、奇跡の数々を行い、神の御言を宣べ伝え、最後には、**十字架**に磔られて、極悪の犯罪人と共に、死んでいかれました。しかし神は、三日目に救い主イエスを墓から**復活**させ、失望落胆した弟子たちの信仰を立ち直されました。そして全世界に福音を宣べ伝えるために弟子たちを送り出されました。

【結】 主の御手の中にある一年

私たちは12月から、**マタイ福音書**によって、主イエスの誕生から、30才でいよいよ**救い主としての公生涯**を始めるまでの日々を学んできました。そして、神の御心の**深い配慮と導き**とが、私たち人間の思いをはるかに超えたものであることに、驚きを覚えてきました。

今日は**1月1日元旦**です。自分にとってどのような1年になるのでしょうか。自分の力の足りなさや、衰えを感じれば感じるほど、心細い思いになりがちです。しかし私は先日、素晴らしい祈りの言葉を読みました。

「**神の御手の中に未来がある信仰**を、私たちの中に**成長**させて下さい」

私たちはともすると、**自分の手の中に自分の未来がある**と誤ってしまいがちです。違います。**この1年365日も、主の御手の中にある**のですね。

ある方にとっては、丁度主イエスのナザレの村大工の日々のように、余り変化のない**平穏な一年**になるかも知れません。しかしナザレの日々も、神の配慮のもとにある日々でした。またある方には、**転換**を迫られる一年になるかも知れません。神が新しい働き、新しい生き方をお与えになるのです。主はナザレでの家族との平穏な生活を捨てられました。

「**主は人の一步一步を定め、み旨にかなう道を備えてくださる**」（詩編37：23）のです。「主よ、**私の未来はあなたの御手の中にある**のです。御心をなしたまえ」と祈りつつ、御心を尋ねつつ、御心に従って一步一步の歩みを進めていく信仰を持たせていただきましょう。

祈ります：2017年を、このように愛する兄弟姉妹と共に、礼拝をもって歩み出せましたことを、心から感謝いたします。あなたは荒野で叫ぶヨハネをお用いになって、主イエスを、平穏なナザレの生活に終止符を打つ人生の大転換へと導かれました。しかしそれは、十字架へ向かっての歩みでした。私たちの歩みにおきましても、この一年、あなたはどの様なご計画をお持ちでしょうか。私の思いではなく、あなたの御心が行われますように、お委ねする信仰を持たせてください。主よ、私たちにあなたの愛をお与えください。互いに愛し合い、助け合い、喜び合う日々を送れますように、お導きください。かけがえない命を殺し合う戦争を止めさせて下さい。平和をお与え下さい。

主イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン